

不公正な現実と向き合う

米の公民権運動発祥地に2展示館

米国アラバマ州モンゴメ

リー市は人種差別に抗議する公民権運動の発祥地である。言い換えれば、人種差別が最も根深い土地柄でもある。かつては奴隷売買の中心地でもあった。南北戦争(1861〜65年)では、奴隷制度を維持するための



東自由里氏

南軍(連合軍)がこの地で結成された。今でも南軍に関する記念碑が50以上ある。

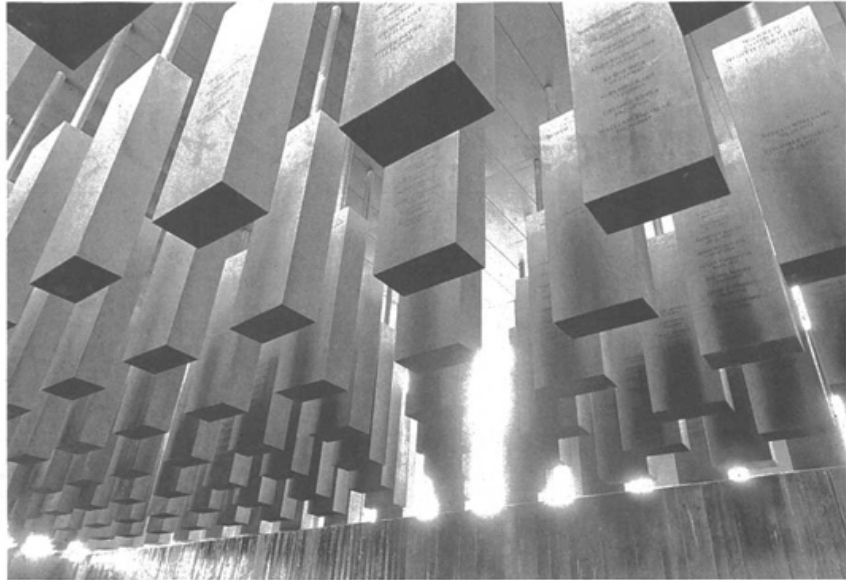
今春、人権派弁護士アラアン・ステイブリンソンが率いる非営利団体EJIによって「ザ・レガシー・ミュージアム」と「平和と正義のためのナショナル・メモリアル」の二つが開館した。

われていた。レンガ建築た。外観に派手さはない。建物の面積は約10000平方呎強、こぢんまりとしているが、最新の技術を取り入れられている。センサーが作動すると3Dホログラムで人物たちが立体的に映し出される。鉄格子の向こうの暗闇からかつての奴隷たちが私に話しかけてくる。子どもから引き離された母親がいた。神に救いを求める人がいた。奴隷時代を生きた人たちの話を耳を傾けながら館内を進んでいかなければならない。

同じフロアにいながら場面は現代に切り替わる。場所はどこかの刑務所だ。アフリカ系アメリカ人の囚人と「面会をする」場面設定である。私は椅子に座り、備えつけの受話器を取りあげて耳を澄ませる。画面の相手も私とほぼ同時に受話器をとり、視線を合わせる。

「今日は来てくれてありがとう、私の話を聞いてほしい」と話しかけてくる。冤罪で収監されている人がいた。14歳で終身刑を宣告された少年がいた。看守に強姦されて子どもを産んだ女性があった。フィクションではない。全員実在の元囚人たちだ。話を聞き終えると、一人が私にこう問いかけた。「あなたならどうする?」。私は絶句した。まとも

に答えられない自分がいた。実在する元囚人たちを登場させ、人種差別に起因する不公正な裁判制度の現状を告発させる。この発想と手法はまさに現場で活動する法律家でこそなせる業である。



「平和と正義のためのナショナル・メモリアル」館内。亡くなった人たちの名が刻まれている。9月、筆者撮影

1863年にリンカーン大統領が「奴隷解放宣言」を打ち出しても、南北戦争で南軍が降伏しても、アフリカ系アメリカ人に対する制度的差別がつかえることはなかった。形を変えて今日まで持続している。この現状を鋭く告発しているのが「ザ・レガシー・ミュージアム」である。視点は二つ。一つは、奴隷制度のレガシー(遺産)と真正面から向き合うこと。もう一つは、現在の「法的制度の不備」が生み出している人種間不公正を暴露すること。

構想から実現まで10年を要した。展示内容は説得力に満ちている。ミュージアムとなった建物はかつて商品であった奴隷と家畜を収容するための倉庫として使

リンチは南北戦争終結後に過激化し、1950年代まで続いた。その後、モンゴメリーで始まった公民権運動は勝利した。けれども、米国社会における差別と分断は解消されることはなかった。ますます深刻さの度合いを増している。これにどう打ち勝つか。今回、訪れたミュージアムとメモリアルにその方途をみた。

(ひがし・じゅり)